

Ⅳ 戸塚・厚木道に沿って……長後街道、中田北、葛野方面

この地区は現在、長後街道や横浜市営地下鉄が通り抜け、泉区の中で最も賑やかな地域であるが、実は長後街道は明治中期に開発された街道であった。しかしそれまでも、細々ながら厚木へ向かう道があった。それは街道の名に値しない里道のつぎはぎではあったが、戸塚宿の居住者の一部は柏尾通りでなく、こちらを大山道として利用したようである。こうしたいわば二級大山道はその他にも数多くあったようだ。ここにその一部を列挙してみよう。

○**谷矢部道** いわゆる「やとやべ」の矢部小学校のところから、中田・白百合方向への道と、踊場への道とを分岐する。分岐点に大山道の道標がある。

○**郷境道** 上記のしらゆり公園付近から横根稲荷方向への道で、旧中田村と旧岡津村との郷境をなしていたことからこう呼ばれたものだが、八王子方向への道として利用されていたらしい。

○**小田原道(岡津道)** 岡津の三嶋神社(小田原北条時代にはここに太田大膳亮なる武士が住んでいた)から、踊場、汲沢を通り抜けて、深谷の専念寺(注、ここにも三嶋神社)前を通り、小田原の本城に向かっていと想定されている。

○**葛野コース** 踊場から西進し、東明住宅内を通過、葛野小学校前を通り、通称「かまくらみち」の県道に出、下和泉の古い集落の中を通り抜け、台谷戸・和泉高校・中和泉左馬神社等を通って、上飯田の仲通り集落の中へと導かれている。

○**三ツ俣コース** 中田の中央部、石巻康敬の墓地あたりから、野球場の南を西進して、通称「かまくらみち」県道の三ツ俣信号を通過、和泉町中央部付近を横断、旧大山道の本道に「壊れた出羽三山塔」のところで合流する。

①長福寺・須賀神社 和泉町3662

長福寺は泉小次郎創建の道場であると伝えられている。須賀神社はその守護神。泉小次郎は北条幕府打倒の旗を挙げた武人で和泉に住んでいたと伝えられる。

②泉小次郎伝承地 同上

長福寺の裏手の丘(和泉中央公園)が、泉小次郎の館跡と伝えられた場所。よく見ると土塁の跡が…。森の中の池は「小次郎馬洗いの池」と称されてきた。

③神明社 和泉町3595

境内のはずれに蚕霊供養塔がある。幕末期に降霜のため蚕が全滅したという事件を伝えていて、大山道の道標にもなっている。隣にも「大山道・藤沢道」の道標がある。

④立場 和泉町4042

明治中期、養蚕業の発達とともに県央内陸部と横浜とを結ぶこの地は現在「かまくらみち」と呼ばれている道路と十字路であったため、賑わいを増してきたことに目をつけた中田の青木氏がここに立場(人馬の休み場)を開業した。

⑤高札場跡 中田北二丁目5

ここは中田村の中心地で、中田村の高札場があった。昭和20年8月30日厚木に進駐したマッカーサーはジープを連ねて長後街道を横浜に向かう途中、喉の渇きを覚えてこの地の人家の井戸で一杯の冷水を所望、うまそうに飲んだという。人、名づけて「マッカーサー井戸」という。

⑥桑原部隊本部跡 中田南四丁目4

太平洋戦争が逼迫した昭和19年、旧海軍が今の中田小学校の地に桑原部隊という工作部隊の本部を配置した。当時、しらゆり公園、白百合団地なども同部隊の管理地であった。

⑦中田信用組合跡 中田北二丁目12

奥津喬次郎氏は中田の恩人。当時、中田は痩せ地で農家経営は疲弊の極にあったが、氏は中田信用組合を創立、中田寺の住職香川法隆上人と力を併せて難局を切り開き、模範村の名を高めた。JA中田支所の前に顕彰碑が立っている。

⑧中田寺 中田北二丁目11

石巻五太夫康敬(下記⑩参照)の開基。境内に力士・戸田川の墓石などがある。

⑨御霊神社 中田北三丁目42

旧鎌倉郡地域に多い御霊神社の1つ。祭神はどこも共通の鎌倉権五郎景正のほか、日本武尊を祀る。鳥居脇には御嶽講の碑が立っている。

⑩石巻五太夫墓所 中田東四丁目56

石巻五太夫康敬は小田原北条氏の重臣であった。秀吉による小田原攻めの直前、城主の代理として弁明に赴くが許されず投獄される。のち、家康はこれを許し、中田村に蟄居させた。家康が江戸に入府する際、五太夫橋のたもとで家康に再会、中田村を知行地として認められた。

中田寺の近くに墓地がある。

⑪小島資料館 中田東二丁目14

もと教職にあられた小島貞雄氏が「中田ふれあいの樹林」の隣にあるご自宅を開放して、民俗資料などを展示している。ただし、見学には事前連絡が必要。

⑫寒念仏供養塔 中田東一丁目1

むかし猫が踊ったという伝説がある地に「寒念仏供養塔」が立っている。実は中田寺の住職らによる寒念仏の供養塔だが、ロマンに惹かれて訪ねる人が多い。